

のもと、迅速に連絡し対応するというシステムの構築である。電話等の連絡ではなく、専用直通ボタンを採用することにより、より速く確実に伝達できるものと思われる。造影剤による重篤な副作用が発生した場合、適切な対応の遅れが重大な医療事故につながりかねない。全ての施設において緊急時の対応について普段から取り組み、実践に活かせるようにしておくことが重要である。

研究発表② MRI 部門 座長集約

八戸赤十字病院 大澤 哲平

研究発表②における MRI 部門の研究発表では、以下に記す 2 演題が行われた。

演題 10.

「MRCP における食事摂取後の経時的胆嚢体積変化について」松山赤十字病院 露口智絵氏の発表であった。MRCP 検査において食事制限をすることは知られているが、食事の種類で胆嚢体積がどれだけ変わり、時間とともにどのように再拡張していくかはあまり知られていなかった。本研究にて、食事の種類と検査目的によっては、失念などにより食事をしていても検査ができる可能性が示唆された。各施設での、MRCP 検査における食事制限の取り決めにおいて、一助となる発表であると思われる。

演題 11.

「乳腺 MRI が特に有用であった 1 例」高松赤十字病院 土田紘子氏の発表であった。本研究では、乳頭血性分泌の症状があるにもかかわらず MMG、US で病変を確認できない患者の 1 例に注目していた。本患者に対し乳腺 MRI を行ったことで腫瘍を指摘し、病理診断にて乳頭腺管癌と認められており、乳腺 MRI が診断に有用である可能性を示してくれた。乳腺 MRI は、感度が高いが特異度も高いことが知られており、Minds による推奨グレードも決して高くない。しかしこのような症例もあることから、臨床症状等を考慮したうえで乳腺 MRI を行うことも検討してよいものと思われる。

演題 10. の発表は、座長や理事の方々からも評価が高く、優秀賞を授与することとなった。

研究発表③ 医療情報・管理・運営・教育部門 座長集約

松江赤十字病院 磯田 康範